

協働する子・自律する子をめざして

20日に市教委の学校訪問があり、全クラスの授業の様子を参観いただきました。この訪問は「主体的・対話的で深い学び」の充実に係る指導主事訪問との名の通り、授業参観及び授業改善の取組を基に意見交流を行うことが趣旨となっており、本校のこれまでの取組を知見を有した方々に参観いただき意見を聞くことができるので大変有意義な機会と捉えています。

本年度の研修テーマは『挑戦から学ぶ、自律した児童の育成をめざして』と題して①自律した児童の育成②対話による深まり・変容③基礎学力の定着をめざして取り組んでいます。

中でも学校経営方針にもある『自律』という言葉は、漢字からイメージはつくのだけれど、保護者・地域の皆さんに説明しようとするとうまく説明できにくい言葉と感じています。『自律』という言葉の辞書で調べてみますと「自分自身で立てたきまりに従って行動すること」とあります。「私自身も自律した大人か、

自律した学校か」と問われるとなかなか難しいですが、できている場面もあるし、そうでない場面もあるけど、絶えずそうした姿をめざしているように感じています。

今回は1年生の授業を紹介します。





1年生算数では、「学び方を選んで繰り返しのあるたし算をかんぺきにしよう」とドリルやカード、数種類のプリント（計算問題の数やレベルが違う、文章題が中心など）を用意して、子どもがやりたいことは自分で決める場面を意図的に設定していました。こうして子ども自身に学習の方法を自己選択させると安易なものばかりを選んだり、逆に難易度の高すぎるものを選び困る場面があるのでとは思われる方もあろうかと思いますが、「かんぺきにしよう」というめあてで子どもの気持ちをうまく高めていたり、もしわからない問題があった時の手立てとして「先生に聞く・友だちに聞く・ノートや教科書を振り返る」が板書してあり、安心

して挑戦できる雰囲気を作り出しているからか、参観している間に先生が一人の子にかかりきりになる場面を観ることはあり

	求める子どもの姿	教師の手立て
高学年	□自分（たち）でめあて持ち、行動する。 ・教師がいなくても自分たちで授業を始め、進めていく。 ・「理由」「より良くなる方法」を自分たちで出し合い、めあてを作る ・宿題の内容を自分で決めて実施、ふり返る→次の日の宿題に活かす □やりたいことを自分（たち）で決める。 ・授業の自由裁量時間を使うか選び、力をつく時間とする。 ・自分たちで今日のこの1時間をどの形態でするか決める。 □人に相談したり、助けを求めたりする。 ・自然と友だちに質問に行き、教える。（解決できる） □じぶんにとって困ること、分からないことを知っている。 ・「困り」「迷い」で「どうしようか」を書き、意識する。 →次の日の授業の「めあて」にもなり得る 授業で理解 ・人任せでは終わらない事を実感する。	・任せる勇気、見守る姿勢 ・ゴールの共有 フィードバックのための評価 ・「原因を考える場」の時間をとる。（定期的に） ・個人の見取り フィードバック（個別のアドバイス） ・学習方法を教える。 ・自己選択・自己決定する機会をつくる ・いろいろな学習方法があってよいことを知らせる。 ・させてみる。 ・「みんなは自分の味方」という意識の醸成 ・ペア、グループ活動の設定 ・個に応じた学習スタイルを認める ・悩みの受容（先生・クラス） ・質問タイムの設定 ・自分で気づき等、自己採点（分析）の習慣化。価値づけ →見逃さない目 ・「自分事」とできるように試行錯誤。全員参加させる意図。
中学年	□先生に頼らず、自分たちで考える。 ・自然と机を囲み話し、自分たちで調べたりまとめたりしようとする。 □分からない時に、友だちや先生に尋ねられる。 ・自分の必要に応じて、ペアやグループで話し合う。意見を交換する。 □自分の得意苦手を知っている。 ・「得意」で、選んだことを表現する。 ・ヒントにしたこと、どう考えたかを相手に伝える。	・子どもたちに授業をゆだねる（子どもたちが進める、自由進度等） ・教具を自由に使えるように配置、周知 ・よい自己調整の在り方の紹介 ・ペア、グループ活動の設定 ・学習内容の開示 ・自由質問タイムや解決予想タイムの設定 ・学び方の交流（いつもどんな様で考えているか何に目をつけるか） ・どこまで分かっていて、どこから分からないなど、自分をふり返る機会の確保（ペアトーク、まとめ、ノート） ・ヒントカードの作成
低学年	□やりたいことは自分で決める。 ・具身体験、絵、言葉での説明など自分で選んで表現する。 □分からない時に友だちや先生に相談したり、助けを求めたりする。 ・自分の考えを持つ。・わからないが言える。・自分から行動する。 □自分の困ることや分からないことに気づく。 ・自分や友だち同士で「どうしようか」をし、解決していく。 ・苦手に気づき克服するための行動を起こす。	・自己決定の機会の確保 ・選択肢から選ぶ経験（作り方や素材なども） ・ペアやグループ活動の確保 ・周りの大人は見方であることを伝える ・困る前に手を出し過ぎない支援の在り方を問わる（「手出し」と「手助け」の区別） ・これまでの経験でうまくいかなかったことを覚えていたり、感じていたりする ・自分で気づきなど、自己採点する機会の確保

ませんでした。

また、場所も教室と多目的スペース、自分の好きな方を選んで、学習していました。低学年の先生方が教室横の多目的スペースを上手に活用している場面をよく観るのですが、今回は1人で集中してやりたい子は教室。床に座ってやりたい子や友だちが頑張っている様子を身近に感じながら取り組みたい子は多目的で学習していたように感じました。

昨年度から『自律』した

子どもの姿って、いったいどんな姿なんだろう。またそのための先生の手立てとして何をすべき・何をしないことなんだろうと話合ってきています。夏季休業中にも学団ごとで話し合い、昨年度の成果を基に左のような「自律する児童像」の系統表を作成しました。子どもたちの姿や先生方の実践からまだまだブラッシュアップしていく作成途中の系統表ですが、ご覧いただいた方でご意見やご感想を頂ける方がいらっしゃいましたら是非お願いしたいと思います。